

リョウノウアザミ (キク科アザミ属) (*Cirsium grandirosum Kadota*) の 群生地は生物多様性の宝庫

・・・・・シロバナリョウノウアザミの発見から・・・・・

所沢 あさ子 *

秋に草むらの中にシロバナリョウノウアザミ (2020 年所沢) を発見した。2022 年、そこは花を咲かせたリョウノウアザミ (*Cirsium grandirosum Kadota*) が群生し、昆虫たちが花から花へと飛び交っていた。草むらの植物種多様性は高く、様々な生き物が棲みかとしていた。15m × 10m 程の何気ない草地と思っていたが生物多様性の宝庫であった。このような地域が里で近年急激に減少しているので大変貴重である。保全のために報告する。

◆シロバナリョウノウアザミの発見 ●写真 1

リョウノウアザミは、美濃と信濃の「両濃」に生育する固有植物ということで名がつけられている。主に湿地や小川沿いに時に林内にも生育する。紅紫色の花は 9 月から 11 月まで咲かせ、花期に根生葉が残る楚々としたアザミである。下伊那では時々見かけるが絶滅危惧 II 類種 (長野県版レッドリスト

2014) 指定種。

数年前から飯田市山本標高 692m 道路端に白花のリョウノウアザミがあり、土手の縁でも確認し、シロバナリョウノウアザミ (2022 所沢) とし報告した。

◆草むらには、リョウノウアザミが 60 個体、その内 7 個体の白花があった。

2021 年の道路端から見る土手の上のシロバナリョウノウアザミは 3 個体で周囲の草に埋もれていたので、数回程、際を少し刈り取ってみた。

2022 年 10 月 5 日シロバナリョウノウアザミとリョウノウアザミを残して茂みの約半分 (10m × 5m) を刈り払ってみた。

リョウノウアザミは日陰にも強く、丈が 1m を超える草の中でも花茎をのばし、小さなロゼットだけの個体も数えきれないほどあった。リョウノウアザミの開花個体は 60 で、その内白花は 7 個体もあつ

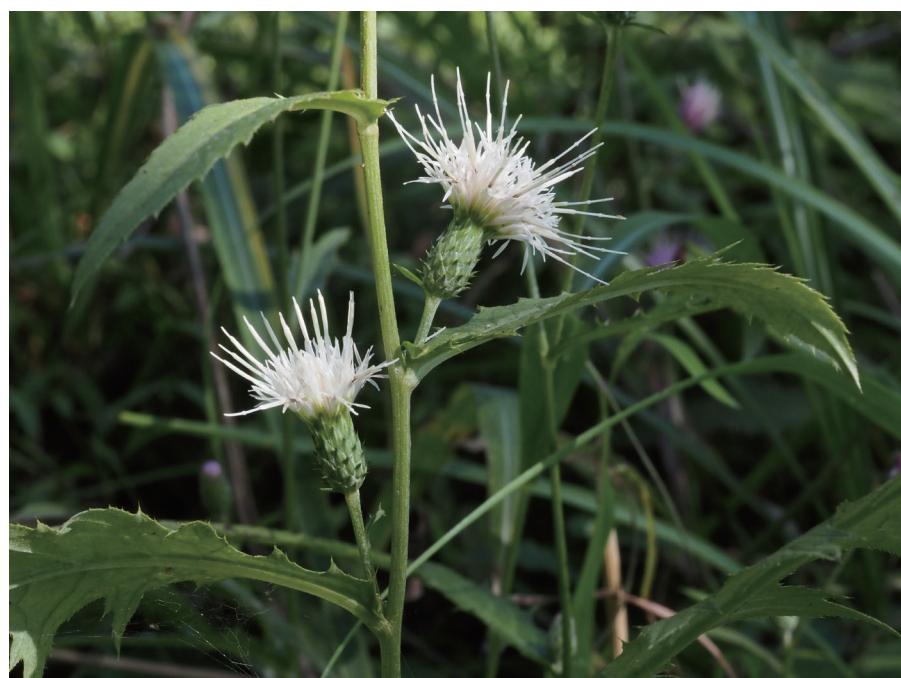


写真 1 シロバナリョウノウアザミ (所沢)

* 所沢 あさ子 長野県飯田市 ajrma@hi3.enjoy.ne.jp



写真2 ナミルリモンハナバチ



写真3 キンケハラナガツチバチ



写真4 トラマルハナバチ



写真5 キアゲハの幼虫



写真6 キタキチョウ

た。

◆草むらは植物種多様性が高い。

リョウノウアザミの咲く草むらには、他にも様々な植物が生育していた。

刈り残した周りも含め約 15m × 10m の範囲にワレモコウ、ウマノアシガタ、チダケサシ、ヌマトラノオ、オオバギボウシ・・・等 140 種の植物が有った。(資料 1 植物種相調査報告 2022 年 参照) 春にはニオイタチツボスミレも群生し、植物種多様性の高い草むらである。

◆草むらは生物多様性の賑わい。

10月8日は晴れて暖かい日だった。草むらで咲いている花は、主にリョウノウアザミで、花から花へとハチ、アブ、ハエ、チョウ、ガ、トンボなど目まぐるしく動き回っていた。シロバナリョウノウ

アザミでは、青と黒の模様の入った蜂がせわしく蜜を吸っていた。後で調べるとナミルリモンハナバチで、「幸せを運ぶブルービー」と呼ばれている。他のハナバチの巣に卵を産み付け幼虫を育ててもらうという。育てる蜂も近くにいる可能性がある。

丈の高い厄介な草むらと思っていたが、ススキにはクロコノマチョウの蛹がぶら下がり、ススキやカリヤスモドキに食痕があった。ワラビ畑の中には孵化した子グモの塊、他のクモ、バッタ、カマキリ、カメムシ、アリ（写真。紙面の都合で出会った生き物ほんの少し紹介。参照）などの棲みかになっていた。知らないで刈払った草むらも、様々な生き物の棲みかだと思うと冷や汗が出る思いがする。（資料2 昆虫種調査報告 2022年 参照）

◆手をかけないが在来植物が生育する草地。

この狭い草むらには、明治、大正時代の蚕玉様（こだまさま）や金毘羅様などの石碑がある。周囲にハナノキ湿地があるが、腰を下ろせるくらい乾いている。

管理は地元で行い、以前は時々刈払い、この20数年は年に1から2回刈払われる。耕作もせず、除草剤の使用も無く草地を維持してきた結果、在来種が占め外来種は入り込めない環境となり生物多様性の宝庫となっている。

◆耕作放棄による生物多様性の損失。

耕作放棄は、帰化植物が入り込みアレチウリ、オオブタクサ、クズ、カナムグラなどが繁茂し、大量除草剤を使用すると裸地になりハキダメギクが繁茂する。酷い時は斜面の土地は土がだめになり、崩れかかっていることもある。

逆に管理が行き届いて草を刈りすぎるとシバになり、耕作の仕方では昔からあった在来の植物や様々な生き物は淘汰され、生物多様性は失われてしまう。

◆貴重なりヨウノウアザミ

秋にリヨウノウアザミの花が長く咲くことは、たとえ猫の額ほどの狭い土地でも、とても意味があることが分かった。そこでは種の多様性が高い植物が共存でき、花の蜜や花粉などを求めて沢山の生物が訪れ、棲みかとしている。

下伊那ではハナノキ湿地を中心にリヨウノウアザミがまとまって咲く所が何か所かある。そこにはこの小さな草むらと同様に、沢山の賑わいがあると思われる。

このような生物多様性の保存上重要な里地は、かつて伊那谷各地にあった。しかし開発や管理放棄や荒廃してしまい、残っているのは極めて狭い範囲になってしまっている。

最後の砦の様なハナノキ湿地周辺の生物多様性を大切にし、将来に伝えていきたい。

謝辞

昆虫について助言をいただきました四方圭一郎氏、井原道夫氏、長らく草地の管理をされてこられた皆様に心から感謝申し上げます。

参考文献

- 下中美都 (2021) フィールド版日本の野生植物 I, II
- 長野県植物目録編纂委員会 (2017) 長野県植物目録
- 長野県植物誌編纂委員会 (1997) 長野県植物誌
- 大塚孝一 (2004) 信州のシダ
- 池畠怜伸 (2006) 写真でわかるシダ図鑑
- 門田裕一 (2019) 岐阜県植物誌キク科アザミ属リヨウノウアザミ
- 信濃毎日新聞社 (2009) 見つけよう信州の昆虫たち
- 安田守 (2012) イモムシ ハンドブック②
- 槐真史 (2013) ポケット図鑑日本の昆虫 1400 ①, ②
- 海野和男 (2019) フィールドガイド身近な昆虫識別図鑑 増補改訂新版
- 浜栄一・栗田貞多男・田下昌志 (1996) 信州の蝶
- 石井英美 (2000) 山渓ハンディ図鑑 3樹に咲く花離弁花①バラ科

資料1-1 山本のリョウノウアザミ群生地 植物相調査

2022年(10月5日、10月12日、11月12実施)下記の 合計 140種 確認した。尚標本のASは所沢あさ子の標本番号

- | | |
|------------------------------|--|
| 1 ヘビノネゴザ(イワデンダ科) | 49 フジ(マメ科フジ属) |
| 2 ノキシノブ(ウラボシ科) | 50 ネムノキ(マメ科オジギソウ属) |
| 3 フユノハナワラビ(ハナヤスリ科) | 51 コマツナギ(マメ科コマツナギ属) |
| 4 イヌシダ(コバノイシカグマ科) | 52 サンショウ(ミカン科サンショウ属) |
| 5 ワラビ(コバノイシカグマ科) | 53 ノブドウ(ブドウ科ノブドウ属) |
| 6 シシガシラ(シシガシラ科) | 54 ツクバネ(ビャクダン科ツクバネ属) |
| 7 ミサキカグマ(オシダ科) | 55 アケビ(アケビ科アケビ属) |
| 8 クマワラビ(オシダ科) | 56 ミツバアケビ(アケビ科アケビ属) |
| 9 ゼンマイ(ゼンマイ科) | 57 ヒメコウゾ(クワ科クワ属) |
| 10 トクサ(トクサ科)(植栽) | 58 ヤブコウジ(サクラソウ科ヤブコウジ属) |
| 11 オオモジ(ムクロジ科カエデ属) | 59 アオツヅラフジ(ツヅラフジ科アオツヅラフジ属) |
| 12 ウリカエデ(ムクロジ科カエデ属) | 60 ソヨゴ(モチノキ科モチノキ属)(植栽) |
| 13 ユキヤナギ(バラ科シモツケ属) | 61 クロマツ(マツ科マツ属)(植栽) |
| 14 サトザクラ(バラ科サクラ属)(植栽) | 62 ヒノキ(ヒノキ科ヒノキ属)(植栽) |
| 14 ウワミズザクラ(バラ科ウワミズザクラ属) | 63 スギ(ヒノキ科スギ属)(植栽) |
| 15 ヤマブキ(バラ科 ヤマブキ属) | 64 アカシデ(カバノキ科シデ属) |
| 16 ノイバラ(バラ科ノイバラ属) | 65 ボタンヅル(キンボウゲ科 センニンソウ属) |
| 17 モリイバラ?(バラ科ノイバラ属 sp) | 66 チゴユリ(イヌサフラン科チゴユリ属) |
| 18 ナワシロイチゴ(バラ科キイチゴ属) | 67 ヤブヘビイチゴ(バラ科キジムシロ属) |
| 19 ニガイチゴ(バラ科キイチゴ属) | 68 ワレモコウ(バラ科ワレモコウ属) |
| 20 カリン(バラ科カリン属)(植栽) | 69 キンミズヒキ(バラ科バラ属 キンミズヒキ属) |
| 21 コアジサイ(アジサイ科アジサイ属) | 70 ミズヒキ(タデ科ミズヒキ属) |
| 22 ノリウツギ(アジサイ科ノリウツギ属) | 71 イヌタデ(タデ科イヌタデ属) 紅葉 |
| 23 ウツギ(アジサイ科ウツギ属) | 72 ミヅソバ(タデ科ミヅソバ属) |
| 24 ヤマツツジ(ツツジ科ヤマツツジ属) | 73 ハナタデ(タデ科ハナタデ属) |
| 25 バイカツツジ(ツツジ科バイカツツジ属) | 74 ユウガギク(キク科シオン属) |
| 26 ホツツジ(ツツジ科ホツツジ属) | 75 ノコンギク(キク科シオン属) |
| 27 イボタノキ(モクセイ科イボタノキ属) | 76 リンドウ(リンドウ科リンドウ属) 2個体に花 |
| 28 コシアブラ(ウコギ科コシアブラ属) | 77 ツルリンドウ(リンドウ科) |
| 29 タラノキ(ウコギ科タラノキ属) | 78 イノコヅチ(ヒュ科イノコヅチ属) |
| 30 ヌルデ(ウルシ科ヌルデ属) | 79 チダケサシ(ユキノシタ科チダケサシ属) |
| 31 ヤマウルシ(ウルシ科ヤマウルシ属) | 80 クサコアカソ(イラクサ科クサコアカソ属) |
| 32 ツタウルシ(ウルシ科ツタウルシ属) | 81 イヌコウジュ(シソ科イヌコウジュ属) |
| 33 ニシキギ(ニシキギ科ニシキギ属) | 82 ヒメジソ(シソ科ヒメジソ属) |
| 34 コマユミ(ニシキギ科コマユミ属) | 83 アキノタムラソウ(シソ科アキノタムラソウ属) |
| 35 ツルウメモドキ(ニシキギ科ツルウメモドキ属) | 84 ヤマハッカ(シソ科ヤマハッカ属) |
| 36 コバノガマズミ(ガマズミ科コバノガマズミ属) | 85 イヌトウバナ(シソ科イヌトウバナ属) |
| 37 オトコヨウゾメ(ガマズミ科オトコヨウゾメ属) | 86 カキドオシ(シソ科カキドオシ属) |
| 38 サルトリイバラ(サルトリイバラ科サルトリイバラ属) | 87 ヨモギ(キク科ヨモギ属) |
| 39 サルマメ(サルトリイバラ科サルトリイバラ属) | 88 リョウノウアザミ(キク科リョウノウアザミ属) |
| 40 タチシオデ(サルトリイバラ科タチシオデ属) | ● 山間の湿地や小川のほとり、時に田畠の畔に生える。 |
| 41 ヤマカシュウ(サルトリイバラ科ヤマカシュウ属) | ● 雄雄同株。長野県中西部・岐阜県中東部。東濃丘陵の特産。 |
| 42 アベマキ(ブナ科コナラ属) | ● 標本 2022. 11.12 AS5782、AS5783 開花個体 53。 |
| 43 コナラ(ブナ科コナラ属) | 89 シロバナリョウノウアザミ(キク科) |
| 44 シラカシ(ブナ科シラカシ属) | ※リョウノウアザミの白花品種をシロバナリョウノウアザミと呼ぶ。(所沢 2021) |
| 45 クリ(ブナ科クリ属) | ● 標本 2022.11.11 AS5781 開花個体 7。● 写真 1 |
| 46 クロモジ(クスノキ科クロモジ属) | 90 フキ(キク科フキ属) |
| 47 ヤブマメ(マメ科ヤブマメ属) | 91 ハキダメギク(キク科ハキダメギク属)道路端※帰化植物 |
| 48 ヤマハギ(マメ科ヤマハギ属) | |

資料1-2 山本のリヨウノウアザミ群生地 植物相調査(つづき)

2022年(10月5日、10月12日、11月12実施)下記の 合計140種 確認した。尚標本のASは所沢あさ子の標本番号

- | | |
|---|--|
| 92 ニガナ(キク科ニガナ属) | 116 オトギリソウ(s p)(オトギリソウ科オトギリソウ属) |
| 93 アキノキリンソウ(キク科アキノキリンソウ属) | 117 タガネソウ(カヤツリ科カヤツリ節) |
| 94 ハルジオン(キク科アズマギク節)
茎は中空 ※帰化植物 旧牛舎脇 | 118 イタドリ(タデ科ソバカズラ属) |
| 95 ゲンノショウコ (フウロウソウ科フウロウソウ属) | 119 シロアヤメ(アヤメ科アヤメ属) |
| 96 ニオイタチツボスミレ (スミレ科スミレ属) | 120 アオミズ(イラクサ科ミズ属) |
| 97 ヨツバムグラ(アカネ科ヤエムグラ属) | 121 セイタカアワダチソウ(キク科アキノキリンソウ属)
※帰化植物 旧牛舎脇 |
| 98 ヘクソカズラ(アカネ科ヘクソカズラ属) | 122 ヒメヤプラン(クサスギカズラ科ヤプラン属) |
| 99 エゾタチカタバミ(カタバミ科カタバミ属)
※種子橢円形で 1.8mm、1.9mm。 | 123 ヤプラン(クサスギカズラ科ヤプラン属) |
| 100 ドクダミ(ドクダミ科ドクダミ属) | 124 ジャノヒゲ(クサスギカズラ科ジャノヒゲ属) |
| 101 ダイコンソウ(バラ科ダイコンソウ属) | 125 オモト(クサスギカズラ科オモト属) |
| 102 スイバ (タデ科ギシギシ属) | 126 アマチャヅル(ウリ科アマチャヅル属) |
| 103 オオバコ(オオバコ科オオバコ属) | 127 シロツメクサ(マメ科シャジクソウ属)
※帰化植物 旧牛舎脇 |
| 104 ツユクサ(ツユクサ科ツユクサ属) | 128 ノギラン(キンコウウ科ノギラン属) |
| 105 マムシグサ(サトイモ科テンナンショウ属) | 129 チカラシバ(イネ科チカラシバ属) |
| 106 スイカズラ(スイカズラ科スイカズラ属) | 130 ササガヤ(イネ科ミヤマササガヤ属) |
| 107 ノダケ(セリ科シシウド属) | 131 ヌカキビ(イネ科キビ属) |
| 108 キツネノボタン(キンポウゲ科キンポウゲ属) | 132 カリヤスマドキ(イネ科スキ属) |
| 109 サラシナショウマ (キンポウゲ科サラシナショウマ属) 道路端 | 133 オオアブラスキ(イネ科オオアブラスキ属) |
| 110 ウマノアシガタ(キンポウゲ科) | 134 コヌカグサ(イネ科スカボ属) |
| 111 オオバギボウシ(クサスギカズラ科ギボウシ属) | 135 スズメノヒエ(イネ科スズメノヒエ属) |
| 112 ヌマトラノオ(サクラソウ科オカトラノオ属)
湿地に生える多年草。 | 136 チヂミザサ(イネ科チヂミザサ属) |
| 113 カナムグラ(アサ科カラハナソウ属) | 137 ススキ(イネ科スキ属) |
| 114 オニドコロ(ヤマイモ科ヤマイモ属) | 138 ヒメアシボソ(イネ科アシボソ属) |
| 115 ヤマノイモ(ヤマノイモ科ヤマノイモ属) | 139 ミヤコザサ(イネ科ササ属) |
| | 140 シオン(シオン科シオン属) (植栽) |

資料2山本のリョウノウアザミ群生地の昆虫種

2022年9月から11月調査。以下が 写真を撮り(目視の8と29含む)同定した29種 所沢あさ子

- 1 イカリモンガ チョウ目 ガ類 イカリモンガ科
- 2 イチモンジセセリ チョウ目 チョウ類 セセリチョウ科
- 3 クロコノマチョウ チョウ目 チョウ類 タテハチョウ科 成虫、蛹の抜け殻、
- 4 キタキチョウ チョウ目 チョウ類 シロチョウ科 ●写真6
- 5 スジグロシロチョウ チョウ目 チョウ類 シロチョウ科
- 6 キアゲハ チョウ目 チョウ類 アゲハチョウ科 幼虫 ●写真5
- 7 ホシベニシタヒトリ チョウ目 ガ類 ヒトリガ科
- 8 クスサン チョウ目ガ類 ヤママユガ科 蛹の抜け殻
- 9 クロキシタアツバ チョウ目 ガ類 ヤガ科
- 10 ホウジャクのI種 チョウ目 ガ類 スズメガ科
- 11 オオカマキリ カマキリ目 カマキリ科
- 12 フキバッタの仲間 バッタ目 イナゴ類 バッタ科
- 13 ツマグロオオヨコバイ カメムシ目 ヨコバイ科
- 14 ベッコウハゴロモ カメムシ目 ハゴロモ科
- 15 ホシハラビロヘリカメムシ カメムシ目 カメムシ類 ヘリカメムシ科
- 16 ナシカメムシ カメムシ目 カメムシ類 クヌギカメムシ科
- 17 アキアカネ トンボ目 トンボ科
- 18 オオアオイトトンボ トンボ目 アオイトトンボ科
- 19 オオセンチコガネ コウチュウ目 センチコガネ科
- 20 キンケハラナガツチバチ ハチ目 ツチバチ科 ●写真3
- 21 セイヨウミツバチ ハチ目 ミツバチ科
- 22 トラマルハナバチ ハチ目 ミツバチ科 ●写真4
- 23 ナミルリモンハナバチ ハチ目 ミツバチ科 ●写真2
- 24 ホソヒラタアブ ハエ目 ハナアブ科
- 25 (ナミホシヒラタアブ)ヒラタアブの1種 ハエ目 ハナアブ科
- 26 (コマバムツボシヒラタアブ)ヒラタアブの1種 ハエ目 ハナアブ科
- 27 ミドリキンバエ ハエ目 クロバエ科
- 28 キイロケブカミバエ ハエ目 ミバエ科
体長5.5~8.5mm 翅長6mm 幼虫はアザミの頭花の中で生育。
シロバナリョウノウアザミの茎にいた。
- 29 ジョロウグモ クモ目 ジョロウグモ科